

令和3年度学校評価委員会議事録

日付	令和4年3月18日(金曜日)	作成日	令和4年4月1日(金曜日)
場所	鹿児島鍼灸専門学校(2F)談話室		
<p>〈会議内容〉 会議次第順次</p> <p>1～2</p> <p>最初に、開会の挨拶、配付資料の確認、本校では、コロナ禍でも状況を早くから想定した学内実習、リモートでの講義を実施した。教授の質だけは落とさないよう心掛けた。又、令和3年度は、新年度に向け大幅なカリキュラ改正年度でもあり、教職員一丸となって準備を進めてきた。令和4年度に向け、学生に質の高い教育を目指し、取り組んでいく。</p> <p>3～4</p> <p>続いて、本日出席の教職員評価委員の先生方の自己紹介があり、審議に入る。</p> <p>5</p> <p>学校の概要について、本校は開校時より、「ヒューマンケア」、人の痛みの分かる看護師の育成を目指し、学生、保護者と共に着実に歩みを進めてきた。中でも、「人間愛」、「独立自尊」、「学如不及」この3つを教育理念として、学生の意欲向上に努めてきた。令和元年から2年にかけて看護師養成所の教育課程において、第5次改正カリキュラムの方向性が示され、本校もこの改正カリキュラムに併せ、ICTの整備・多職種連携教育(IPE)の導入・シュミレーション教育等の準備を進めた。令和3年度に教育課程の編成及び学則の変更承認申請を行い、令和4年度4月入学生からは、新しいカリキュラムでの教育と旧カリキュラムでの教育を受ける学生が混在する状況となる。しかし、本校では、2年前より教育の質の向上の為に新しいカリキュラムにより近づけた教育内容を検討し、学生の学習内容に差が生じないように準備をしてきた。令和4年度に向け、学生に、教職員一丸となって、質の高い教育の提供に努めていく。</p> <p>6</p> <p>学校自己評価について</p> <p>6-1)令和3年度事業実績報告・令和2年度決算報告</p> <p>まず最初に、令和3年度、事業実績報告に基づき説明がある。</p> <p>①授業については、年度初めは、感染予防対策を徹底しながら対面での授業が、</p>			

計画通り実施できた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大実習により、臨地での受入れを中止する施設も出てきました。受入れ中止の領域の実習は、学内実習に変更して実習を行った。鹿児島県看護協会の実習補完事業として高機能シミュレーション学習ができた。又、全授業終了時学生に授業評価用紙を配付し、評価をしている。今年度末に、GPA制度を継続活用し、客観的評価を各学年行う予定である。

②学習環境の整備について

昨年度に引き続き感染対策の強化を継続して行った。又、ICTの整備については、文科省の遠隔授業活用推進事業を活用し、パソコンの補充等の整備を行った。

IPEの授業の中で、パソコンを使用したオンラインでのグループワークや、新型コロナウイルス感染症対策で自宅待機となった学生に対しオンライン授業の提供、パソコンの貸し出し等の対応ができた。今後も継続してIPE(多職種連携教育)授業等にICT活用を計画していく。

③新規実習施設の開拓

新規実習施設の開拓として2施設、新カリキュラム実習施設として、4施設が新たに加わる。

④新型コロナウイルス感染症対策への取り組み

新型コロナウイルス感染症感染拡大を防止する為に、感染の状況に併せてマニュアルの見直しを行い、学生及び教職員に周知を図った。令和3年度に入り、新型コロナウイルスワクチン接種が推進され、本校でも、実習施設での接種が可能な一部の学生を除き、1・2年生及び教職員は6～7月に一斉接種を2回受ける事ができた。現在は、3回目の接種券が届いた順に体調や学業・業務に支障をきたさない時期に接種するよう促している。又、教職員・学生で、学内のアルコール消毒の実施、校舎実習棟入口に自動のアルコール消毒液分噴霧と検温できる機械を設置し、衛生の徹底を図った。

⑤令和4年度カリキュラム改正に伴う学則変更承認申請に向けた準備

令和2年度からカリキュラム検討委員会を設置し、委員会で具体的な教育内容の抽出及び科目の構成等を検討した。臨地実習施設について既存の実習施設に加え、新しい実習施設の必要性がでてきた為、実習施設の開拓も同時に行った。又、教員向け新カリキュラム研修会もオンラインで計画的に受講した。新カリキュラムでは、本校の特色である東西両医学から看護を学ぶ特色を生かし、東洋医学の時間数の増加、看護情報学・看護倫理・国際看護等現行カリキュラムで不足が生じていた為、学習内容を追加した内容で作成を行った。現行カリキュラムでは、臨地実習においては、1時間60分の考え方で、講義1時間45分とは異なる時間数だったものを、すべて統一した考えで1時間45分とした。

⑥ 遠隔授業活用推進事業申請について

本校では、Wi-Fi環境はあるもののハード面の整備が遅れていた。令和3年度は、文科省の遠隔授業活用推進事業を申請し、整備事業に取り組んだ。整備事業では、オンライン授業でのパソコンやipadを活用した授業の実施、災害時の学生への貸与を速やかに行う計画に着手した。

⑦ 看護師国家試験対策について

過去問題を中心に早期から学習習慣について指導し、模擬試験も定期的実施した。12月中旬より、学校の解放を19:00迄実施し、3年生は教室を利用して学習に集中して取り組んだ。年明け後、新型コロナウイルス陽性者が増加した為、3年生は自宅学習を促した。又、成績低迷者の学習支援が出来ない為、学習の状況を電話等で確認した今後の対策として、必修対策や学習方法の指導が不足する為、帰校日には必ず必修対策を時間割に入れ、8月を目安に合格圏内を目指す。又、早期から学習方法の確認や国家対策への取り組みの確認を行った。

⑧ 就職対策 & 学生募集活動について

県内就職希望者が大半であり、令和3年度、県外就職希望者は0名である。

今年度も、希望調査を新学期早々に行い、就職相談を実施した。

学生募集活動については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度の高等学校訪問は6月から訪問可能な高等学校のみ訪問し、受験のお願い、オープンキャンパスの参加を勧めて頂くよう依頼をした。高等学校進学ガイダンスに関しては、実施されたガイダンスについては募集要項の説明など自校のアピールを行った

⑨ 令和2年度決算報告について

令和2年度資金収支内訳表を基に、収入の部は、290,000(千円)、支出の部は323,000(千円)、マイナス33,000(千円)である。理由として、新校舎建設に費やした、建設費関係の支出が要因だと考えられる。しかし、学校法人久木田学園の資金収支計算書を基に算出した場合、法人全体では黒字経営である。

6-2) 令和3年度学校自己評価結果

本年度は9名の先生で自己評価を行い、大項目9項目に対し、平均値を算出した。相対的には昨年よりも良い数字となっている。9項目について、各項目の要旨だけ説明がある。

① 教育理念・教育目的

評価項目に関しては、昨年よりも良い数字である。教育理念に関し、教員の意見として、常時、学生の目につくようにしたらどうかと、今後、検討していく。

② 教育目標

評価項目に関しては、昨年と数字的には大きくは変わっていない。

グローバル化が進む社会に対応した内容が不足しているという意見有り、今後、検討していく。

③ 教育課程経営

評価項目に関しては、昨年と数字的には大きくは変わっていない。

教育課程経営者の活動としては、授業実践を授業評価につなげていく。

しかし、教員養成コースを修了した教員が少なく、経験の浅い教員の指導体制も不足している状況は変わらない。又、教員の教育に関しては、授業準備の時間は取れる状況にはないが、令和4年度から教務事務職員が入職する為、教員の業務が委譲される部分もあり、改善を期待している。

④ 教授・学習・評価過程

評価項目に関しては、昨年と数字的には大きくは変わっていない。

授業の展開過程では、授業計画は立案されている。授業形態については、学生の理解を促す為、学生参加型の授業になるように工夫を行っている。今年度は、研究授業が実施できなかったが、次年度は一方通行でない研究授業に取り組みたいと考えている

⑤ 経営・管理過程

組織体制については、業務分掌を作成し、教育理念・目的を達成する為の権限や役割機能を明確にした。施設整備に関しては、ハード面では、限られたスペースの整備が難しい面もあるが、小グループの学習、面接等協力しながら、部屋割りをするなど工夫している。養成所の運営計画では、運営の年間計画は立案されているが中・長期計画は明確になっていない。今後、運営会議等で検討しなければならない。

⑥ 入学

評価平均が1.8で低い項目である。入学選考の種類については、募集要項、ホームページで明示している。受験者数も定員に満たず、全入学となっており教育理念・教育目的を反映した選抜になってはいないという意見もあるが、受験者は、合格レベルであった為、結果、全入学となった。

⑦ 卒業・就業・進学

評価平均が1.8で低い項目である。卒業時、学年別アンケート、技術到達度のアンケートを実施し自己評価の分析を行っている。2年度よりGPAを導入し、客観的に分析する方法を追加している。しかし、教育理念・教育目標との整合性が不足している。卒業時の就業・進学状況については把握しているが、分析はできていない。コロナ禍が収まり、卒業生が集まれる状況になり次第、卒業後、1～3年目の卒業生のフォローアップの機会を計画する。

⑧ 地域社会・国際交流

地域社会に関しては、評価平均が1.7で低い項目である。昨年度からの新型コロナの影響で地域のニーズは把握できておらず、レオクラブ・自治会によるボランティア活

動も行えていない。学校からも教育活動について、ホームページ・学校訪問・オープンキャンパス等を利用して発信していく必要がある。

国際交流に関しても、評価平均が1.4と低い項目である。今年度は、国際的視野を広げる為に、2年生に特別講義として台湾や日本での病院勤務や医療通訳者として活躍されていた講師を招き、国際看護の講義をして頂き、学生からの講義評価も高かった。次年度も特別講義として計画し、新カリキュラムからは、国際看護を科目立てしている。

⑨ 研究

9項目の中で評価が低く、評価平均は1.2である。今年度は、新カリキュラムに向けて例年より業務量が多く、教員も時間的余裕がないと感じる事が多かったと考えられる。研究に取り組んだ経験が少ない教員も多い為、教員の研究に対する意識を高める事と支援体制や環境を整える必要がある。

6-3) 令和3年度卒業時の到達度自己評価結果

令和3年度、第27期生の卒業時の到達度自己評価として、〔卒業生の特性〕に示している17項目についてアンケート調査を実施した。又、17項目の評価項目について4段階で自己評価を依頼した。卒業時の到達度自己評価平均値をみると、17項目中全ての項目において、「当てはまる」の評価3の平均値に到達できている。令和2年度、自己評価が低かった「国際的視野で国内外の社会の動向に関心を持つことができた」では、令和3年度では、平均値が3と若干上昇している。卒業生には看護管理の中で、国際看護について、特に内容の不足が生じないよう事前に講師に依頼した。2年生からは、特別講義を計画し、新カリキュラムより「文化人類学」「国際看護」を担当して頂く講師に講義を依頼し、学習内の不足が生じないよう配慮した。

しかし、到達度自己評価平均値を見ると国際的視野以外の16項目全てにおいて、平均値は低下している。特に、「人間理解」、「信頼関係を基盤とした人間関係」「専門職業人・社会人としての責任」、「看護の探求心」について0.4ポイント以上低下している。対象理解や人間関係の構築について平均値が低下した要因は、新型コロナウイルス感染症拡大により臨地実習の経験が減少し、学内実習により事例演習となった事が考えられる。又、「専門職業人・社会人としての責任」、「看護の探求心」についても臨地実習の減少が影響していると思われるが、学内での教育の中で、いかに学生に学ばせるかが課題である。今後も新型コロナウイルス感染症の対策は先行き不透明である。今後、更に、学内のクラス運営の中で「専門職業人・社会人としての責任」について意識づけを強化しなければならない。

6-4) 令和3年度教育活動目標の自己評価結果

令和3年度教育活動目標大項目4つに対し、専任教員に無記名で調査を行った。教育活動目標1:教員から常に挨拶等をする事を心掛けたでは、概ね全教員が「とてもよく当てはまる」と評価しており学生への声掛けは、教員からできていた。講義時間外の時間での学生とのコミュニケーションは平均3.5ポイントと若干平均値が下がっている。原因として、次年度に向け、新カリキュラム改正に伴い、教員の仕事量

が多く、学生と談話する時間がとれなかった事が考えられる。

学生の主体的学びをサポートする取り組みについては、平均3.56となっており出来ている教員と難しかった教員のばらつきが見られた。又、十分な教材研究が行えたかの問いについても平均値が低く3.33である。教育方法については、教員自ら学習し、学生の主体的学習を促し、理解を深める為の教材を十分検討する事で、評価結果も満足するものに繋がっていくものと考えられる。今年度は、授業参観を行った教員は新人教員のみが参観し、お互いの授業を参観する事ができなかった。次年度からは、研究授業の実施計画を再度立て、毎年数名ずつの研究授業を行う事で教員の教育力の質の向上に繋げていく。

教育活動目標Ⅱ：令和4年度導入予定の電子テキストの使用方法、及びオンライン授業の活用方法について説明会を開催したが、教員の力に差が生じ、得意な教員はうまく活用出来ていたが、苦手意識の強い教員は、取り組めていない。

教育活動目標Ⅲ：国家試験対策については、次年度以降コロナ禍が持続したとしても工夫を行い、看護師国家試験合格率を上昇させる為の取り組みを計画的に進めていく

教育活動目標Ⅳ：新しいカリキュラム編成を行う目標については、新カリキュラムの編成が出来たと評価した教員は3.67と平均値は高かったが、現行カリキュラムの課題については、明確化出来たと評価した教員は、2.89と低かった。新カリキュラムの編できたが、その内容が現行カリキュラムの課題から検討した教育内容であったか、自信がないと自己評価した教員が多かった。

6-5) 過去3年間の入学者・卒業者数

資料5を基に、令和3年度の卒業者数は11名と少ない人数である。

〈質疑応答〉

新型コロナウイルス感染症の影響で、実習施設の受入れが出来ない状況が続いている中、貴校では、教育活動を工夫をしながら取り組んでいて、良く出来ている。

令和3年度、卒業者数が少ない、退学者についてお話を聞きたい。

留年・退学者については、学業成績の不振はもとより、近年、新型コロナウイルス感染症の影響にて、家計の経済的な理由で退学していく学生も見受けられた。又、入学者に関しても、モチベーションの低い学生は受入れないようにしている。他の学園さんも同じ状況ではないかと察している。

授業中、寝ている子は少ない、しかし、国家試験には受からない。私の教え方が悪いのか、逆に、専任教員からの意見をお伺いしたい。

国家試験に受からない原因は、学生自身の要因も大きいですが、教員がもっと一丸となって、全員を合格させるという共通認識をもって、深く係る必要がある。

新型コロナウイルス感染症の影響で、臨地実習が出来ていない状況が続き、現場でも出来ない看護師が増えている。学内実習ではどういう事を教えているのですか。学内実習も、臨地実習と同等な内容で取り組んでいる、高機能シュミレーター、医学映像教育センターの配信サービス、看護教育協議会実習補完DVDなどを活用し、患者役の対象の反応を見ながら、学内実習計画に沿って実習を行っている。

コロナ禍の中、学生に対し、どのように向き合い接しているか、お聞かせ下さい。日々、学生には、意識して声掛けをしている。コミュニケーションは取るようになっている。気になる学生がいたら声掛けを多くし、常日頃、アンテナを張っている。

最後に、前回の学校関係者評価委員会でご意見を頂いた、「ジェンダー・レス」の時代に沿って、制服等も検討してはどうかという事について検討した結果、令和5年度入学生から選べる制服とする予定である。

以上